

第2学年美術科学習指導案

指導者（美術領域専攻）： ○○○○
（指導担当教員 ○○○○）

1. 日時 平成19年4月25日（木曜）第2校時（9:45～10:35）
2. 学年・組 第2学年1組 計40名
3. 場所 美術室
4. 題材名 「空間表現をしよう」～平面に不思議な空間を表現する～
5. 題材の目標

（美術への関心・意欲・態度）

- ・興味、関心をもって透視図法やその他の図法を習得し、よりよい空間表現を目指して、自ら進んで制作しようとする。

（発想や構想の能力）

- ・作品の構成や意図を主体的に追求し、自己の作品のイメージに柔軟に取り入れようとする。
- ・色の性質を理解し、条件に応じて効果的な配色を考える。

（創造的な技能）

- ・イメージした形や配色になるよう、根気強く追求し、制作する。
- ・イメージした画面を目指して、より完成度を高めようとする。

（鑑賞の能力）

- ・全員の作品を鑑賞し、自分とは異なる発想の仕方や構成の工夫などの効果的な表現を見つけて味わい、他者及び自己を評価する。

6. 題材について

①題材観

現在、テレビや映画などの多くのメディアでは、コンピュータグラフィックスを用いて、平面に宇宙や巨大建物等の奥行きのある空間を表現した作品や、紙面上の漫画やイラストにおいても、連立する高層ビルの街並みや、奥行きのあるレタリングなどの多くの作品を発信している。普段、私達が何気なく見ている動画や絵は、空間を平面に表現することで、見る者の視覚に訴え、平面でありながらも、劇的な場面や身に迫ってくるような緊迫感を味わわせることに成功しており、既に一般的に広く知られた技法として認識されている。平面上に立体を感じさせる空間表現は、鑑賞者に強い視覚効果を与えられ、不思議な感覚に陥らせる点が魅力といえる。また、コンピュータグラフィックスの様な高度な表現技術は、透視図法の一点透視図法や二点透視図法等の基本的な図法の応用によって確立されてきているものであり、この題材では、それらの基となる仕組みが扱われる。

本題材である「空間を表現しよう」では、レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』のDVD鑑賞、先輩の参考作品や参考資料等の鑑賞によって、生徒の立体への興味・関心をかき立てながら、透視図法（遠近法）の特徴や仕組みについて重点的に学習し、透視図法の技法を理解することをねらいとする。

本題材で扱われる透視図法（遠近法の中での線遠近法である）や投影図法（斜投影図法、等角投影図法などがある）を用いた空間表現は、画面構成及び、空間表現に伴う効果的な色彩表現が必要となってくる。したがって本題材では、透視図法や投影図法の仕組みを理解し、平面に奥行きの感じさせる空間を効果的に画面構成する「構成力」、また、彩度・明度・色相の色の特性・属性を活かし、ポスターカラーによって色彩構成する「カラーコーディネート力」、そして、アイデアを具体化させる「発想力・創造力」、ポスターカラーを巧みに活用する「技能」を観点とし

た空間表現を行っていくことが扱われることとなる。

②生徒観

生徒は中学2年生となり、中学校の生活にも慣れてきている。しかし、新学期から2ヶ月経ち、学級にも慣れたことで、どこか日常に“怠さ”を感じ始める生徒が目立ちがちである。また、積み重ねること自体が疎ましくなってしまう雰囲気の中で、これから梅雨が始まり、からっとしない日が続くと更に集中力が奪われるだろう。

今回の「空間を表現しよう」という題材では、図法を用いて平面に立体を描く技法の習得、及び、画面構成（デザイン）、色彩構成、着彩といったように、段階を経て積み重ねていく作業進行が主となるため、生徒にとって、今まで難しいと感じていた立体表現を、図法によって簡単に描けることの興味深い発見と共に、平面上に空間を組み立てていく難しさと向き合うことで、積み重ねの続く課題制作の過程で、張り合いを見つけることができると思う。また、色彩を扱うことで、更に空間に自分自身の感情や好みの表現を加えられる為、より一層作品に愛着をもって取り組み、課題制作に集中できるだろう。また、最後に鑑賞の時間をもつことで、友人の好みやセンス等の新たな面に気付いたり、日々の生活面においても、友人とのよりよい関係を築くきっかけとなり、積み重ねの日々に対する意識向上につながるだろう。

③指導観

本題材は、生徒が初めて美術の領域で図法を学び、透視図法（遠近法）を用いた図形だけで画面を構成するデザインの指導となる。しかし、生徒が知識として図法を理解したとしても、白紙上に表現したい空間を想像し、アイデアを積み重ねて制作していく過程は、生徒にとって強く戸惑いを感じる部分であるため、指導には十分注意が必要である。

生徒が白紙と対峙した際に感じる戸惑いを和らげられるよう、わかりやすくシンプルな言葉を用いて指導していくよう心掛ける必要がある。生徒の戸惑いを和らげる手段として、「生徒の作業スピードに合った、段階を追う指導」と、「ラフスケッチでアイデアを練る過程を組み入れる指導」、及び、「過去の参考作品を鑑賞し、生徒が表現の広がりや方向性を理解できるような指導」、の三点が挙げられる。また、導入の段階で、その三点に加え、普段あまり意識する機会のない“空間”についても、生徒の認識度に合わせて、学級全体が空間について同じ認識をもてるよう、身近な事例をあげて指導していく必要がある。

着彩の段階では、色み・明度・彩度についてしっかりと特徴をおさえた上で、自分の作品イメージに合った色の選択、及び空間をより効果的に表現する色の組み合わせを考えさせる点に留意して、色相環を用いるなど具体的な色彩効果についての指導もしなければならない。

鑑賞では、空間を美しく描き出された作品の特徴と理由を生徒に考えさせ、鑑賞メモに生徒自身の考えを記入させることで、意見の交換と今後の制作に活かさせていけるよう働きかけることが大切だと考える。

7. 指導計画（全10時間）

第1次 導入(透視図法(遠近法)について知る)・・・1時間

- ・レオナルド・ダ・ヴィンチ『最後の晩餐』のDVD鑑賞によって、遠近法について知る。
- また、教科書や参考作品を鑑賞し、課題把握する。

第2次 展開1（透視図法や投影図法について理解する）・・・4時間（本時 1 / 4）

- ・図法の種類を知り、図法プリントで特徴や描き方を実践しながら理解し、透視図法を用

いて立体を描く。

- ・作品にする図法を選択し、画面構成を考えてラフスケッチする。
- ・配色を工夫し、アイデアをまとめる。

第3次 展開2（学習内容を活かして作品を製作する）・・・4時間

- ・ケント紙に作品の下書きをする。
- ・アクリル絵の具で彩色する。

第4次 まとめ（作品鑑賞および評価をする）・・・1時間

- ・全員の作品を鑑賞し、シートに自己評価と他の作品の評価を書く。

8. 本時の学習

①本時の目標

- ・透視図法(遠近法)に興味を持ち、それらの技法の描き方や視覚的効果について理解することができる。
- ・投影図法(斜投影法, 等角投影法)と透視図法(一点透視図法)のそれぞれの特徴の違いに気づき、自分で描くことができる。

②本時の展開

○主なる指示・発問 ■評価

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物・資料 等
導入 10分	<p>1. 前回の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD『最後の晚餐』の鑑賞メモを基に、レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯や作品についてや遠近法についての気づきを発表する。 <p>「波瀾万丈の人生だったと思います。」</p> <p>「最後の晚餐です。」</p> <p>「モナリザです。」</p> <p>「遠近法です。」</p> <p>「透視図法です。」</p> <p>「一点透視図法で消失点があります。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透視図法(遠近法)→遠くのは小さく描き、手前のは大きく描く。 ・「最後の晚餐」には一点透視図法。 ・絵画の中のイエス・キリストのこめかみに釘の跡が残っており、それが消失点だと知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「前回鑑賞した『最後の晚餐』について、メモにとった内容や気付いたことを発表しましょう。」 ○「レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯はどのようなものでしたか。」 ○「どんな作品を作りましたか。」 ・レオナルド・ダ・ヴィンチの作品や生涯について確認させる。 ○「最後の晚餐には、どのような技法が使われていましたか。」 ・絵画「最後の晚餐」をスクリーンに映し、遠近法の効果や仕組みを復習させ、奥行きのある絵画についての関心を深める。 	<p>ノートPC プロジェクター スクリーン</p>
展開 35分	<p>2. 本時の課題を知る。</p> <p>透視図法(一点透視図法), 投影図法(斜投影図法, 等角投影図法)についての図法の特徴を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付された図法プリント No.1 No.2 を参照 	<ul style="list-style-type: none"> ○「投影図法には、斜投影法と等角投影法が 	<p>図法プリント</p>

	<p>し、透視図法や投影図法の種類によって、立体の見え方や描き方が異なることを知る。</p> <p>・まんが解説冊子を参照し、それぞれの透視図法の違いで視覚効果が異なることを知る。</p> <p>・図法プリントに斜投影法と等角投影法を作図する。</p> <p>・斜投影法と等角投影法の違いについて理解する。</p> <p>・図法プリントを参照して、一点透視の特徴を知る。</p> <p>・消失点と面の特徴を意識しながら、一点透視図法を用いて星型の立体を、定規を用いて描く。</p>	<p>あります。」</p> <p>○「透視図法には、一点透視図法・二点透視図法・三点透視図法があります。」</p> <p>・図法プリントと冊子を参照させながら、それぞれの特徴を示していく。</p> <p>○「透視図法の“点”とは、“消失点”のことです。」</p> <p>・視覚効果の違いを紹介する。</p> <p>○斜投影法、等角投影法を用いて描いた立方体を板書して違いを示す。</p> <p>・要点を踏まえて、作図させる。</p> <p>○「斜投影法の基準は“面”です。等角投影法の基準は“線”です。」</p> <p>■図法プリントに要点を押さえながら斜投影法、等角投影法の図を描くことができるか。</p> <p>○「一点透視図法の基準は“面”だと意識して、作図しましょう。」</p> <p>・図法プリントを参照しながら一点透視の描き方を伝える。</p> <p>■一点透視図法の特徴を踏まえ、図形を描くことができるか。</p>	<p>No.1 No.2 冊子</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>3.まとめをする。</p> <p>・鑑賞プリント、鑑賞メモを提出する。</p> <p>・次回の授業の持ち物を確認する。</p>	<p>○「鑑賞プリントとメモをまとめて提出しましょう。」</p> <p>・次回の持ち物を板書する。</p>	

③評価(の観点と方法)

- ・透視図法や遠近法に興味を持ち、それらの技法の描き方や視覚効果について理解することができたか。
- ・斜投影法、等角投影法、一点透視図法のそれぞれの特徴の違いに気付き、自分で描くことができたか。

④板書計画

「空間表現をしよう」

投影図法 ・ 斜投影法 ・ 等角投影法

透視図法 ・ 一点透視図法 ・ 二点透視図法 ・ 三点透視図法

消失点

< 次回の持ち物 >

・ 図法プリント No.1 No.2 ・ 定規

⑤準備物

生徒：筆記用具，鑑賞プリント・メモ

教師：参考作品（学校にある空間表現の作品数点），図法のプリント（2枚），図法解説補助マンガ冊子，PC機器（ノートPC，プロジェクター，スクリーン）